

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト 能登半島支援 第3期贈呈式を開催、専門高校を視察

全国44経済同友会による震災復興の共同事業「IPPO IPPO NIPPON プロジェクト 能登半島支援」第3期活動では、約2,018万円のご厚志を基に石川県立能登高等学校を中心に実習機材を寄贈した。3月5日に贈呈式として、浅野大介石川県副知事を訪問し、能登高校や七尾東雲高校の視察を通じて、学びの現場に触れた。



能登高校の調理室にて実習を見学した永井(後列左から4人目)・加藤(同5人目)・岩井(同6人目)各共同委員長

本プロジェクトの主たる支援先である能登高校は旧五校(分校を含む)が統合して誕生した学校で、現在は宇出津校舎と柳田校舎の二校舎体制である。地震被害は特に柳田校舎で深刻で、通学路や寮前斜面の崩壊の復旧の目途はまだまだ立っていない。校舎間の地盤沈下などの被害もあり、2025年秋からようやく本格的な復旧工事が始まった。復旧の遅れは生徒数減少にも影響しており、能登地区全体で定員割れが続いている。

3月5日、石川県庁で行った贈呈式では、浅野大介石川県副知事に目録を贈呈するとともに、感謝状を受領した。浅野副知事は、「本プロジェクトを通じ、経済界から世の中の時流や政策の方向性に合致した、アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成支援をいただいていることに感謝している」と述べた。

能登高校の訪問に際し、永井靖二共同委員長は25年1月の第1期活動での訪問を振り返るとともに、「3人の共同委員長が揃って訪問できたことをうれしく思う。寄贈した実習機材が生徒の皆さんの学びに役立つことを願ってい

る」と述べた。

屋敷秀樹能登高校校長は、「本プロジェクトをはじめ、さまざまな団体から継続的な支援を受け、多くの人とのつながりが生まれたことで、生徒に大きな変化をもたらしている」と語った。屋敷校長によると、課題研究や探究活動に主体的に取り組む生徒が増え、例えば地域産業科では金沢の老舗料亭と連携し、企画・デザイン・食材の栽培まで生徒が手がけた弁当の販売を行い、好評を得ているそうだ。1年生の探究活動でもSNSを活用した観光発信や、大学生と連携したクラウドファンディングの実施など、自ら考え行動する生徒が増えたそうだ。

また、同校の調理室にて、ソーセージとミートローフ作りの実習授業を見

学の上、それぞれの完成品を試食したほか、生徒との質疑応答、寄贈した機材について宮窪哲生能登高校教諭からの紹介があった。

その後、9月に訪問した七尾東雲高等学校を再訪し、2月に納入された折曲げ機械について説明を受けた。折曲げ機械は金属板の多様な曲げ加工が行える機械である。実習ではCADによる設計から切断、折曲げまで一連の工程を学ぶ予定で、加工条件を数値で記録できるため作業の再現性が高まり、考察により多くの時間を充てることができる。担当の大塚教諭は「新しい機械の導入に、生徒が自主的に実習棟の清掃を行うなど、学びへの意欲の高まりも見られた」とうれしそうに語った。

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト 能登半島支援の概要
本会ホームページをご参照ください。

ご挨拶／設立趣意書⇒



寄附の仕組み⇒





2026年4月をもって、約1年半3期にわたって続けてきた本プロジェクトによる能登半島支援は終了した。第1期～第3期までの活動による支援総額は、当初目標としていた3期合計9,000万円を大きく上回り、9,902万440円に達した。ひとえにご協力いただいた全国の企業・法人、個人の皆さまのお力添えのおかげであり、心より深く御礼を申し上げる。

実績・成果

	第1期 (2024/9/2～2025/2/28)	第2期 (2025/4/1～8/31)	第3期 (2025/10/1～2026/3/31)
参加企業・個人	企業・法人292社 個人37人	企業・法人141社 個人22人	企業・法人128社 個人16人
寄付金額	4,377万 7,247円	3,506万 5,414円	2,017万 7,779円
主な支援先 上段: 支援先 下段: 内容	石川県立能登高等学校 地域産業科	石川県立七尾東雲高等学校 機械システム科、総合学科	石川県立能登高等学校 地域産業科
	アンカー、電気オープン、 トラクター等	折曲げ機械、 玄米低温 貯蔵庫菜庫等	燻煙機、充填機、 フードカッター、挽肉機
	石川県教育委員会事務局 庶務課	石川県立田鶴浜高等学校 衛生看護科、健康福祉科	石川県立志賀高等学校 普通科ビジネスコース
	寄付(25万7,837円)	器械戸棚、モニター、 カラーレーザープリンター	カラーレーザープリンター
		石川県立能登高等学校 地域産業科	石川県立飯田高等学校 普通科ビジネスコース
		台ばかり、低温恒温機、純水製造器	平机
	石川県教育委員会事務局 教育政策課	石川県教育委員会事務局 教育政策課	
	寄付(21万6,974円)	寄付(57万4,461円)	

支援機材と寄贈先

トラクター

石川県立能登高等学校



折曲げ機械

石川県立七尾東雲高等学校



電気オープン

石川県立能登高等学校



活動を終えて ～本プロジェクト共同委員長より

加藤 博

中部経済同友会 直前代表幹事

このたびは本プロジェクトへの多大なるご支援に心より感謝申し上げます。

私は共同委員長として能登半島支援に携わり、二度にわたり被災地を訪問した。実習機材を提供した専門高校においては、先生方や生徒の皆さまと直接交流することができ、復興に向けて懸命に歩みを進めておられる姿に深い感銘を受けた。同時に、地域の未来を担う人材育成の重要性をあらためて強く実感した。

本プロジェクト自体は一区切りを迎えることとなるが、被災地の復興はなお道半ばであり、今後とも復興支援へのご協力をお願い申し上げます。

永井 靖二

関西経済同友会 前代表幹事

第1期と第3期の贈呈式に参加した。現地を訪れ、2年が経つ今でも復旧は道半ばであることがくぜんとしたが、寄贈した実習機材が生徒たちの学

びや意欲につながっている姿を実見し、教育を通じた復興支援の意義深さを肌で感じることができた。現地の産業を支える人材育成は地域創生の根幹で、かつ復興から成長へのけん引役である。全国の経済同友会がその一翼を担えたことは大変光栄であり、ご協力いただいた皆さんに深く感謝申し上げますとともに、能登半島の一日も早い復旧・復興を心から願っている。

岩井 睦雄

経済同友会 筆頭副代表幹事

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトは、その名の通り、復興に向けて、「一歩、一歩、進んでほしい」との思いから被災地に寄り添う支援を積み重ねてきた。この活動は終了となるが、経済同友会では今後も引き続き、人づくりを軸に能登半島の復興に貢献していく。また、併せて、国や地方公共団体への働き掛けを継続的に行い、専門高校の実習環境の充実に向けて取り組んでいく所存である。